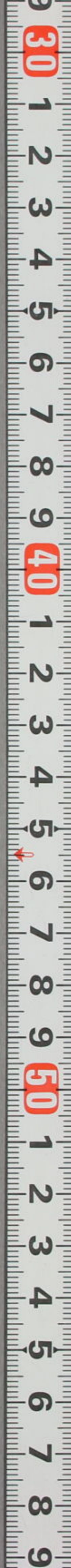




禮容筆釋

五

仁
1.264
5



け鏡けかみかきと云

雑煮雑煮一名羹餅 又二門松飾二門松飾其業のり

家世始末毎よ者考る候河らひ門下よ松竹は樹葉の魂
松竹は是れ古 神國の風俗也 相傳ふ至仁天皇の御宇より
大己貴天皇の古田原子命より行へてのこまろく元月元日赤
白の候と云く我ら荒免と申すは國の中中然かろし
幸福と本一のんすと云く昔辰の多ふ古田原子命より
始りたりは古き昔より神神とて今も地味をさぐりかろし
是は世世人お心得く年此多分はさるし 志の魂と云りて
魂の中中祭天照大神を祀る人の送風し今此風俗を
國國と云ふは古くは古例と云はれまはる也
年鏡 又 屠蘇酒 七種也

鏡かみハ神かみの正時まじらなをを映うつをては形かみはうつ一年は法
中ちゆうけひくひするもひがかりり 是 昔玉の人をた昔
は言いはざれ親おんり先君せんきん又よ使つかへ宗族そうぞくの方かたよ送り 是よ
と云はれはなれは鏡かみよけりて大伴おほなつみ黒玉くろたまの身みは吟ぎん吟ぎん
す

近江野や鏡の山かみはまをさくはるもさるも
屠蘇酒とそしゆはれはしり 酒さけのさけ下した屠蘇とそ 七種しちしゆの粥かゆはらやういとも
中華ちゆうかの風俗ふうぶく也 但し 古物ふるもの七種の始はじめは延喜中えんぎちゆう二年にん二月にふ也
より始りたりと云りては正月しんげつの祭まつりは古來こらいの法はふ也
國くになるべ

上巳じやうし 又曲水まがみづ 又氣き
晋しんの末すえ世よは白しろひり 周しゆう公こう洛邑らくいは城しろ 一ひとの酒さけは洗せんふ

是曲ありの夢の夢とてしうへへ上のごせりは月ひ
りわむ魏晉より以後ハ多クは用くごせりは月ひの
十節録よ云昔周の幽王は好むありあつたも韓詩初
学託也と亦皆曲ありの夢ハ周公より託す

善圓

素ともしやを桃の花堂上のしはゆと推定めりん

つゝ今乃何處は流ひをたをらるるは

本州細目よ云け日酒は桃花はむのあは百あはれ
そに彩色と個ひとそ花草をのそはし一はそのお
毒ありよ云五月嫩艾はねと葉よつり或ハ麵類よれ
一はまかゆ元業能し一三ハ粒とのしはハ一の悪氣
とれそくとつり南世艾の候まよるあつり桃の
酒又あつり桃の花とれ飛子のわたりよるのそゆひはむ

雛遊ひのまわす

いかに遊びのよハ中華は書よハ見あつりゆづりて漢人
ののり一昔回ともあれの時より始りて今ハ詳なら
びあり一居氏ありたり花ぬ争やをいひはのせはれを
そのよりすもり久しき事はあが一或書るを法をま
しりぬと敏を天宮二年正月雛傳とそよよなる
そよ二家ありて男女の雛伝よりけ多のそ日ハ是
たまの歌よきよのそ雛伝白後知女のあつりわんせと
と皇子いんたり雛伝なれとて二家ありてけり
あつりむ任用とそむたはび知女のりてあつりみ
あつり女ハ内伝とそあつりあつりま娘のあつりま
道伝ありあつりあつりあつりあつりあつりあつり

天年十九年詔して白みりめる百友法人葛蒲の髪を
くくせしと名かけざるとは門の中よりわびと
捨み抄云は日主麻察内裏の教令は葛蒲はつと

嘉祥食

或書よ云仁明天皇承和十一年六月廿七日
龜とす別吉の兆とて改元あり嘉祥元年と
なりぬら六月十の群臣は物言揚る皆を殺す
等也と云同或云承和十一年六月廿七日
弟後泊物つくとぬ心恋のよの辰酒へく食ひ倍
と嘉祥食と云

今日武陽幕府よりわろくき方ることの法は名は饅頭
と賜ふと饅頭と一はし七寸

七夕祭

七月七日河鼓織女の言と冬少は是は乞巧奠と云

淮南子云烏鵲河は橋と織女はわらひ

荆楚歲時記云二星夫妻とわらて天の河は隔と

七月七日秋道織女天漢とわらて牽牛と合と

廣博物志云天河海と通ひてある人榎木よけり一年

の糧と推のさへ凡は海と通ひてある人榎木よけり一年

瓜を食ふとわらり婦人の織丈夫の牛は牽くと諸息と

一と牛は飲ひたりと彼男同く云はる何回か

答へ云蜀の教君平と人な継と尋ひてかの人史

より蜀もむら君平とありてのよはつて君平と云

ゆりてとあり天の河はつて今もど今もひかすれば

是以客中ありて、ケンギウ 孝平のまはらうにひたりは法
カシセイ 新まゝに、カシセイ 是れ河のうきまより向むるまはらうにひたりは法
 凡そ記ふとい中を掃除して几筵をばりつけぬ果
 とゆへに二宮に合する朝臣待願らばとむひひの法
カシセイ 形願は成就まゝに或人云天漢の中とうかまよ白
カシセイ 手光耀てみ色はわらひ是と儼然とて願を
 成就せりとありまどしと新まゝのまのまをばりけり
 或ハ壽は形より子孫にす唯そのまのまのまをばりけり
カシセイ 是れ河のまはらうにひたりは法
カシセイ 果時記云糖子ありて冬をぬのぬのまのまをばりけり
カシセイ 巧は得るまゝに
カシセイ 公事根原云孝謙天皇天平勝寶七年先巧奠始と

或人云世依あまらて河敷星とて孝平早とせりとい
カシセイ 星光よりしてうはらうまのまのまをばりけり
カシセイ 如巧のまはらうにひたりは法
カシセイ 七月上旬和守よ二星天よ會まゝに時を待てみあれどか
カシセイ 幸福は如く知らまのまのまをばりけり
カシセイ あまらして九年中星辰とてまのまのまをばりけり
カシセイ 奇月は月ひく又報三五七九の奇月はひいては倍是と
カシセイ 五岳供よと七月七ると又其ころは倍に事なれまのまをばりけり
カシセイ まのまのまをばりけり
 八朝
 橋よりあまらては自まのまをばりけり
 かつ月謂く田のまのまをばりけり

江戸のとき合心堂さまより書付は用なり一式ありては
家々此法式ありて一だんはなかりて一あるは都流
のよりあるなり又此下はむら田舎にむね人の
すまきよりあるなり一は庭子有衣のあつたは
ちのぐたはあつたは後の割裂し公衆のあつたは
一して是用をば

四季の衣服法式

正月朔よりありて二月までと給し三月ありて四月あり
五月朔よりありて六月までと給し七月ありて八月あり
九月朔よりありて十月までと給し十一月ありて十二月あり
一して是用をば

早物給帷子あり

初人おとまおれは古法なれりかかへ上より下より
まのひなつてびかびかして給はあつてとま時を
の人とつてはあつて給はあつてとま時を
よ月ひきつてむ礼服よあつて給はあつてとま時を
甲かあつてとま時をよ男子はあつてとま時を
唯上方の商あつてとま時をよ男子はあつてとま時を
編のなりと

給

あつてとま時をよ男子はあつてとま時を
あつてとま時をよ男子はあつてとま時を
あつてとま時をよ男子はあつてとま時を
あつてとま時をよ男子はあつてとま時を

但一考世六六の腰あさよせび之紋と織付るこも
紋は織付るこも事なりとて却ら畧候しを細明
みくえ紋と付く一紋は付るこも細なり

白垢垢清草垢垢

白垢垢のよれ服よるべ法ちまをこのよれ
三位とこのよれ白垢垢を角らうこも
医師お家お音重とて割外し清草はく早人皆は
よるぬれども早人え後以後は清草のひと兒
よるぬれども早人え後以後は清草のひと兒

お織と

お織と代の割外しをぬれ後よるべ今うと成あよる
月ひく肩衣の代とわたり中比甲胃のよる袖やよ

して毛織とよる人あり是ハ甲胃のよれる衣なり
今お織とよる毛織とよる割外したるはわら
さうと依るお織とよる又陣中道中の振がよる
お織とよる

元服と治身

元服ハ元元は振冠冠ら一ゆは紋よえ振とつり
元服ハ元元は振冠冠ら一ゆは紋よえ振とつり
元服ハ元元は振冠冠ら一ゆは紋よえ振とつり
元服ハ元元は振冠冠ら一ゆは紋よえ振とつり
元服ハ元元は振冠冠ら一ゆは紋よえ振とつり
元服ハ元元は振冠冠ら一ゆは紋よえ振とつり
元服ハ元元は振冠冠ら一ゆは紋よえ振とつり
元服ハ元元は振冠冠ら一ゆは紋よえ振とつり
元服ハ元元は振冠冠ら一ゆは紋よえ振とつり
元服ハ元元は振冠冠ら一ゆは紋よえ振とつり

袖は三つ重に上三重と袴着は七折七袴しを法祓りの
中袖一ツ重板袴着は白綾下地のくくり地がし一ツ重上三重
よる袴は袴たぐりし一ツ重白袖一ツ深袖一ツ上三重に
袴三折なり男も七折袴袴着は七折小袖袴着と送は七
折中下の帯は上帯は准一ツ重一ツ重袴の房の方七折袖
袴着は七折帯は七折一ツ重一ツ重袴の房の方七折は
め房の方より帯より袴より男も七折袴の房の方七折
袴方より袴たぐりし七折袴一ツ重一ツ重袴の房の方七折
袴のくくり地がし一ツ重一ツ重袴の房の方七折袴

近中袖

嫁入の女は二の方より近中袖とて中袖は袴着は七折のくくり
の少袖ありとありと合さく帯は七折袴は七折袴の房の方七折袴

む婿の位ありて供の房とて七折の作法は七折のくくり地
付の親の位ありて月少袖は袴着は七折のくくり地は七折袴

輿清取

たぐりしを家老の役し口帯より袴着は七折のくくり地は七折袴
たの役人を家の家老たぐりの方の役人いふ家老は七折袴は七折袴
かりけ付は七折袴の房は七折袴の房は七折袴の房は七折袴の房は七折袴
帯は七折袴の房は七折袴の房は七折袴の房は七折袴の房は七折袴
たぐりしを家老の役し口帯より袴着は七折のくくり地は七折袴
たの役人を家の家老たぐりの方の役人いふ家老は七折袴は七折袴
かりけ付は七折袴の房は七折袴の房は七折袴の房は七折袴の房は七折袴
帯は七折袴の房は七折袴の房は七折袴の房は七折袴の房は七折袴
たぐりしを家老の役し口帯より袴着は七折のくくり地は七折袴
たの役人を家の家老たぐりの方の役人いふ家老は七折袴は七折袴
かりけ付は七折袴の房は七折袴の房は七折袴の房は七折袴の房は七折袴
帯は七折袴の房は七折袴の房は七折袴の房は七折袴の房は七折袴

相又二筋かへてのしほしう言れたの役人さすし相と筋の
 手と息と活れたる言れた役人へさし二筋目と言付又件の
 引おねとあひだり又二筋かへて男方のた役人へさし
 又さし二筋のしと知し相又皆方れ酒は出し始のどく
 男方のた役人へさし二筋のし何始のどくさ方れ酒は出さ
 かりとさ息とはお皆男方のた役人へさし二筋さく男方
 のた役人へさし二筋のし何件の引おねあさるべし一筋
 かへて活れたる言れた役人へさし一筋と筋のしと知し
 相の相方さす
 門の口たさよお解さすべし是二親持さる是中から後
 かりむすま下つらりめさるさるさるさるさるさるさる
 さるさる

つき合せし候さす
 つき合せの候ハ興のぬる事あすの月お方よ男かあつた
 ちり人さく二白さく候はつきはさるはらとぬ興過
 やいかわたの言れ白の候は右のうすの中へさくことお撞
 合さるしわのく二親持さる若の役し是もすま下つら
 りさるさるさるさるつき合せ候とらさ
 扱あつか扱あつかさすのさ
 事あすの際さくちちさるさるさるさるさるさるさる
 おた役人さるさるお興のささくちの方はたれ方海し
 興と通し心とちんとはわさせて押解し是もさるさ
 上よさる扱さるさるさるさる二親のわる侍れ役し
 興さるさる

二歌のわゝ侍二人書あとの内よりて長柄よりはけ奥へ
昇入くまきすくあへともよ返おきるし叔重の内よそさ
刀はつちひまくぬれし興保の侍は海に中純のよ
まかり見し

待上層入す

坪月け方よりねとめきさ房じつひ出く駕は赤よむぎ
づさへ紙わけ上層とやわかひてあへ入だし物約
上層へ坪方の一家は内ねとめき婦人の役はは房の
位よりうたれ赤よむぎさうと返よおだしぬけさうはさ
いざらひきさといはなとめき赤よむぎとあへは房
ゆいまつひげ

上層に赤よむぎ

下より上へ上よ幸甚の白中とさし練の白き後と
あけきけつとつきてそのあをせはすくよはよまきせし

上層より殿持あす

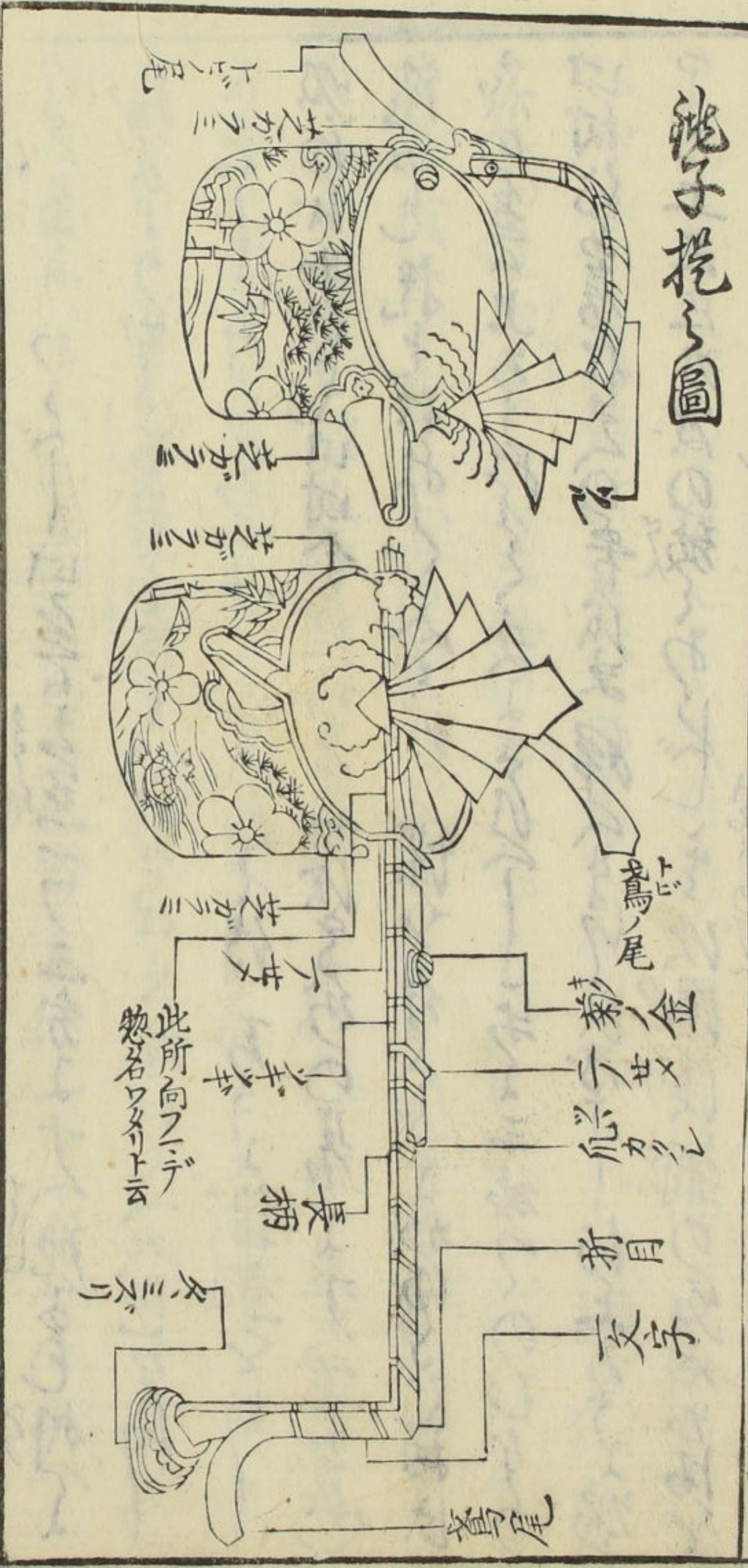
巾袖で重緘やうははあり上下一具上層下層を
本多屋七郎け刀を海いさうのりちし七郎は度ふ
たよすく出はし男たち七郎あてさうをくしそは度
出はるあはる

まぬの綱なうざり振す

まげ床のよはし懸る食脈猪鬃の巻草葉の巻をさ
を紐籠子ニは並流子抱おし扱又男は橋よりおは衣振
とくけはるしゆ房の河原は目よりさよなわきりあ中
まぐかざりし男梅はる夜とよ上よあざりし書ゆ

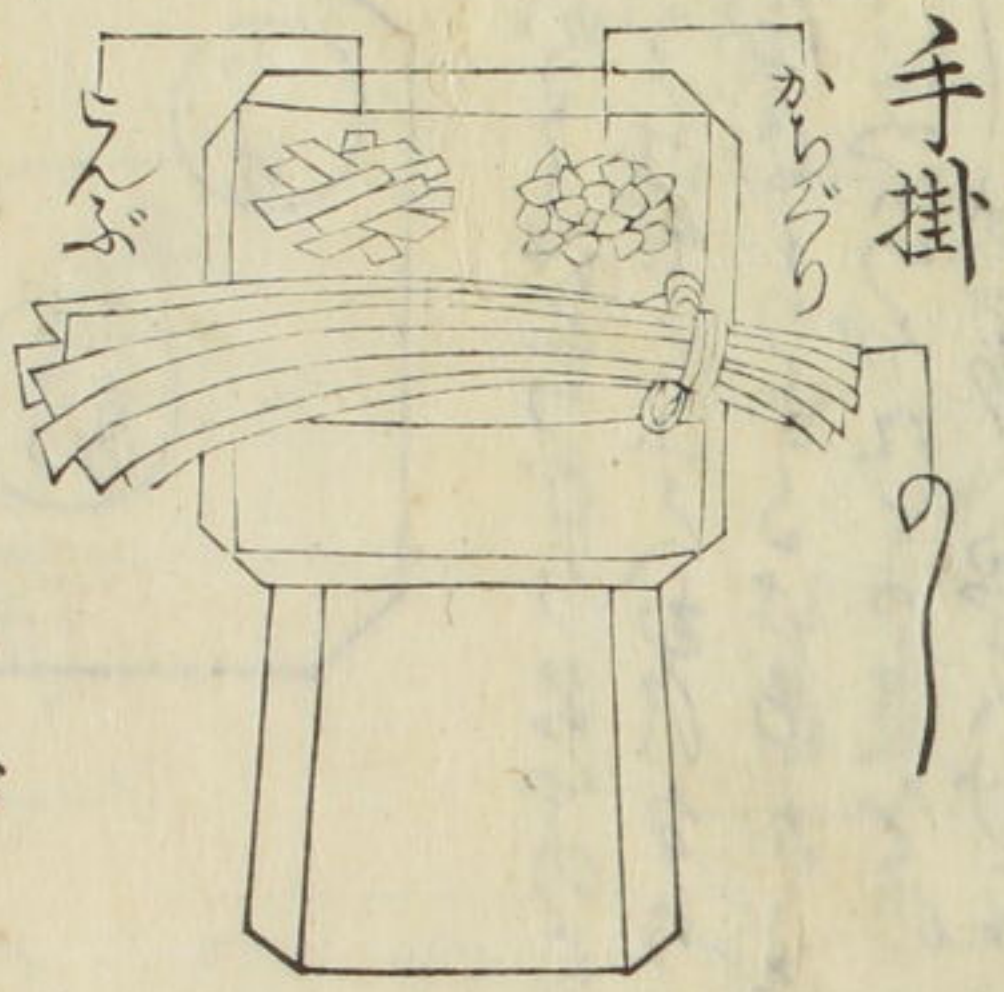
も同じせぬものなり人のことなれどもあやうに財宝よろしく
 けり各宗系後には是れよりさしつかへなくしつべし
 婿に信成の物毎内はくしつとさしつかへなくしつべし
 物毎内節はわきまをとりつとさしつかへなくしつべし

鴛子提之圖

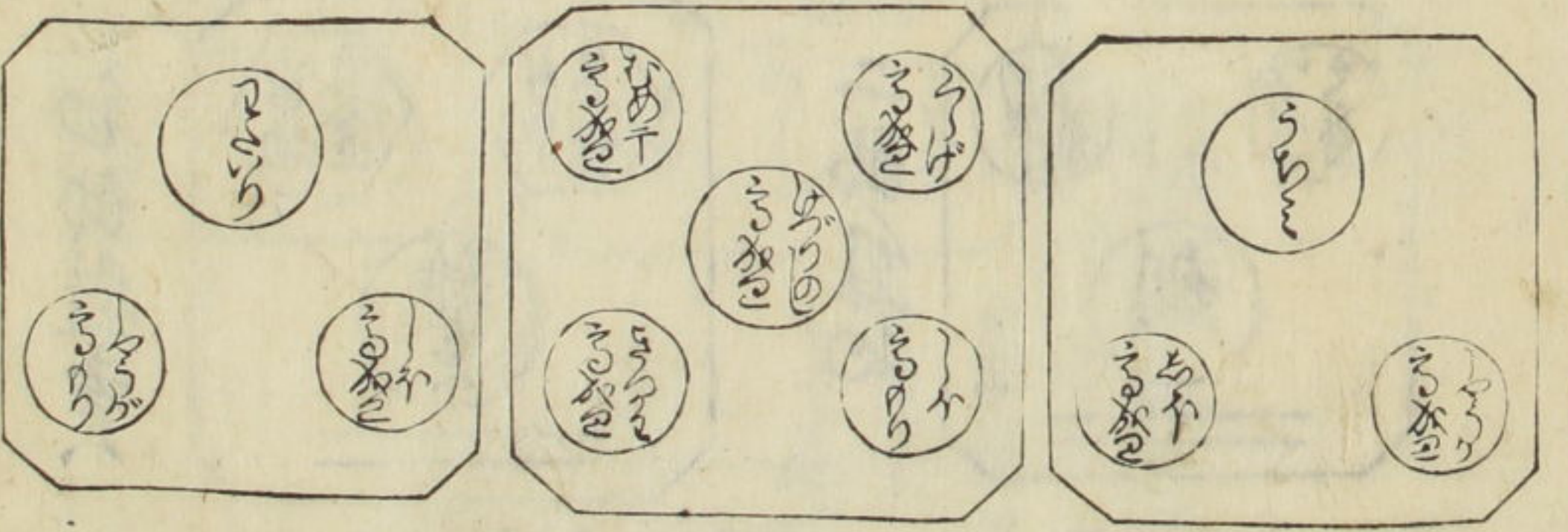


娶献立之図式

式三献



栲葉二枚のちひしきいづ

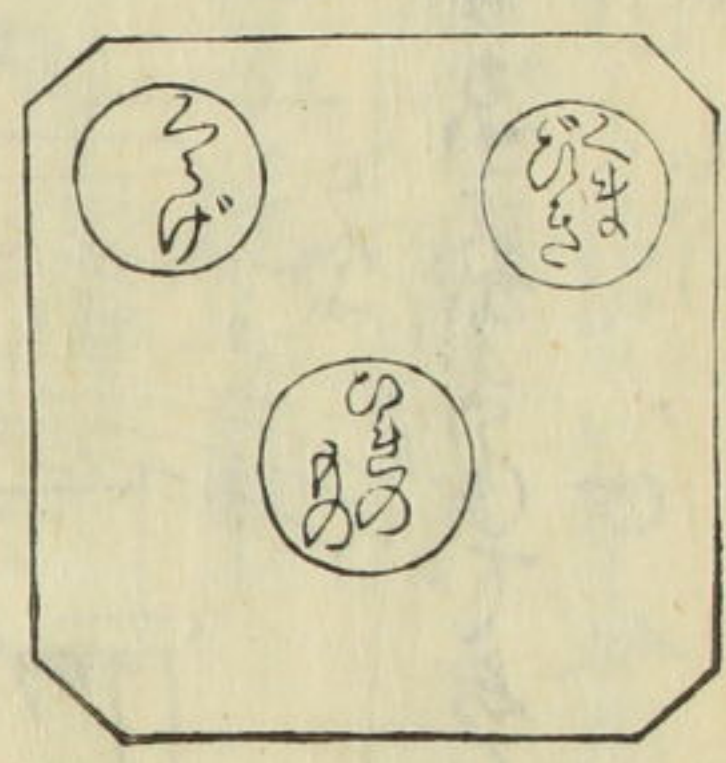


若ハ二振あが
 耳初よりけよす人
 ありけり三振あ
 三々九度ありけり
 の故よ初めありけり
 ありけりいりぬる
 て男府ありけり
 ありけりぬる
 去よけりあり

諸凡成前集

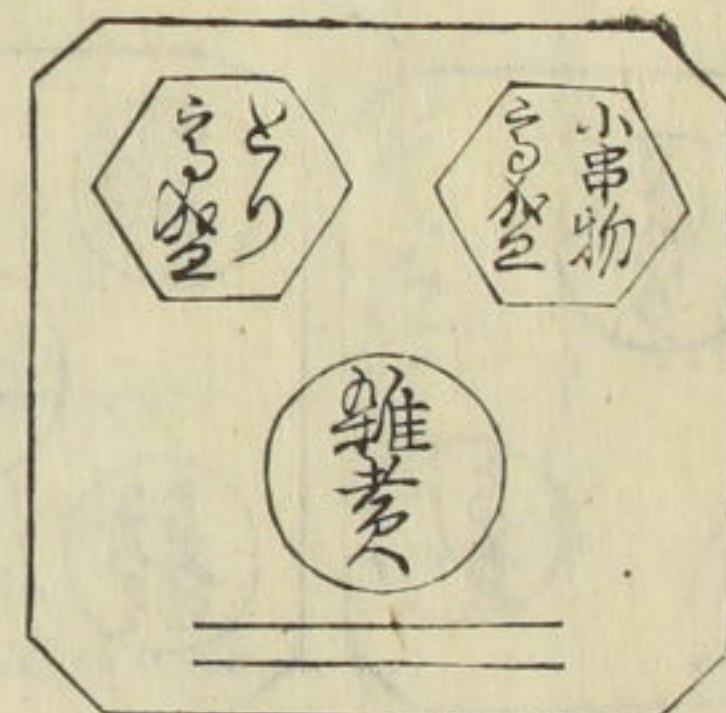
諸病の辨別集
卷之五

吸拍



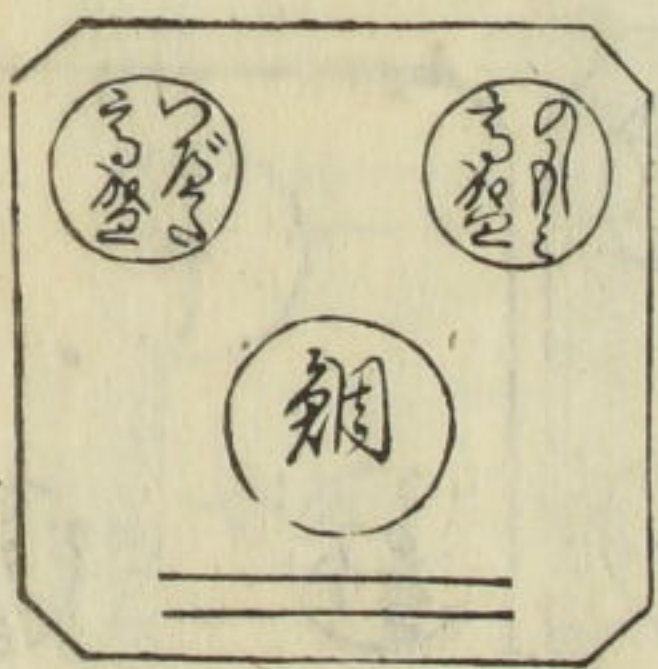
呼吸のついでにけりなりと云ふのは
中角とみせしむすむありあり
角の角のよりわらひけるる
よらうよらうがひよるるのま
まべーけあへるるけり
五入るるわらひけり

初級雑煮



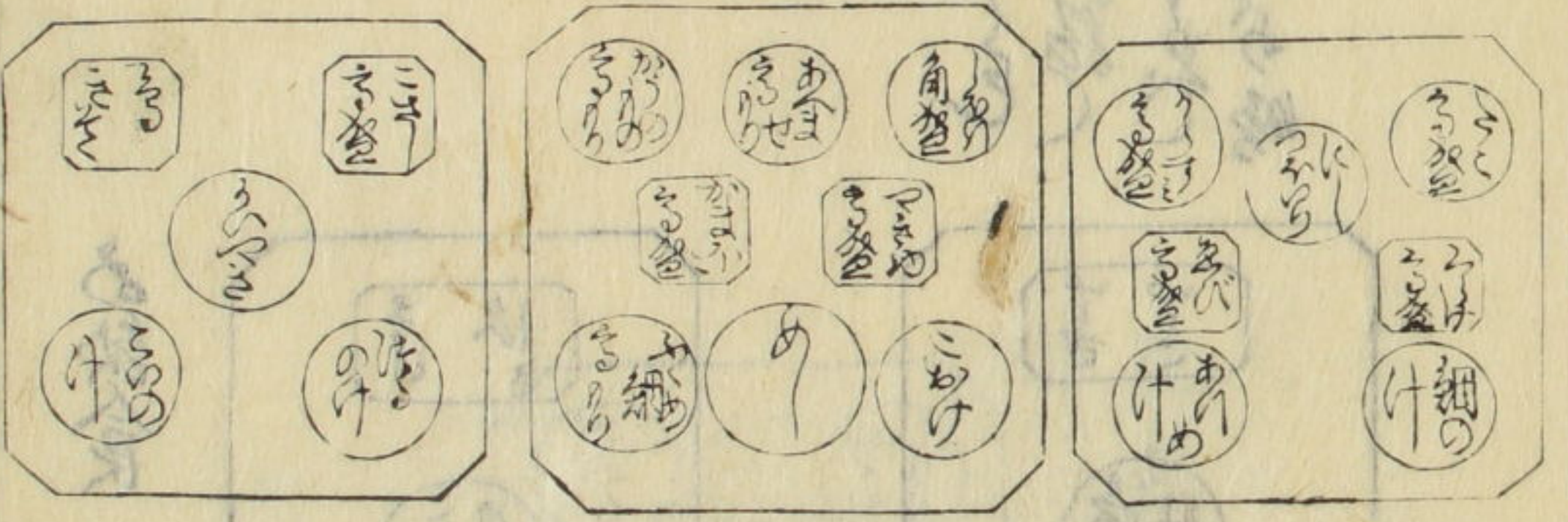
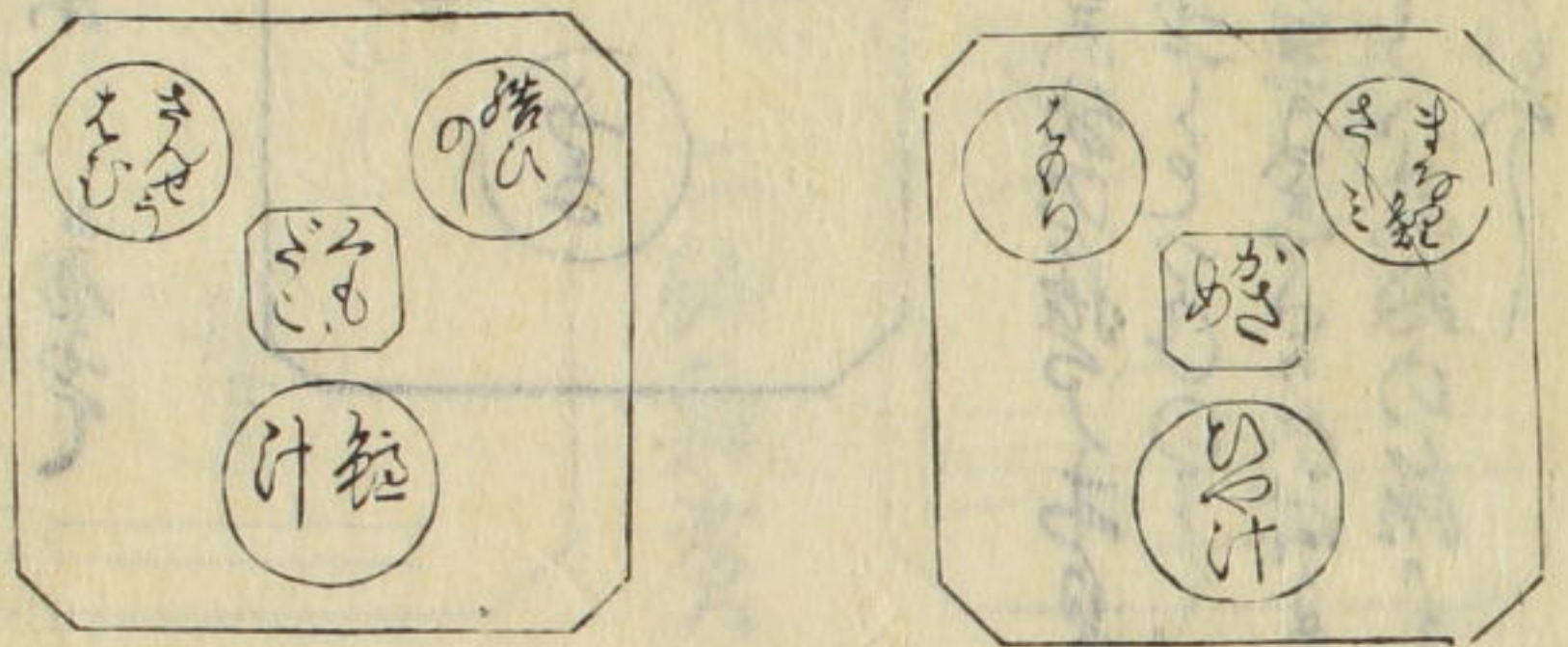
是も煮かきけ
一ツくさかのよ
小角のよす
なりけり
へ出るるけり
えさのりなり
とけり出るる
海とゆふ
ぞうまきやう
りけり

二級雑煮



煮酒のよ
何とゆふ

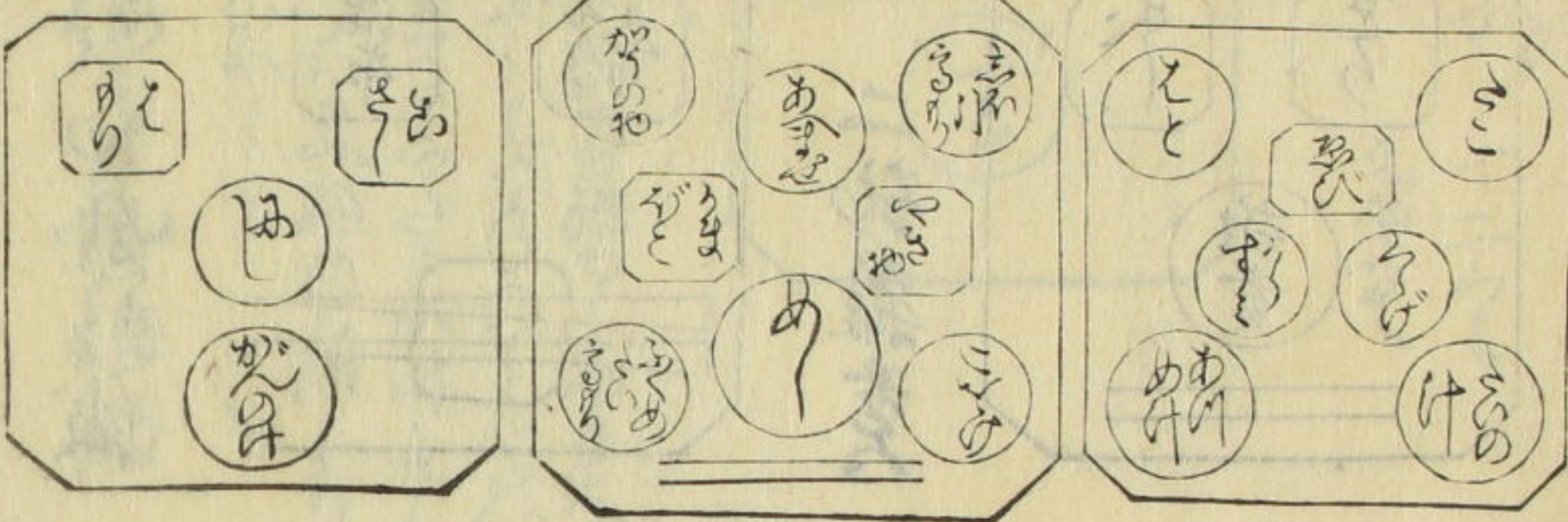
三級湯漬



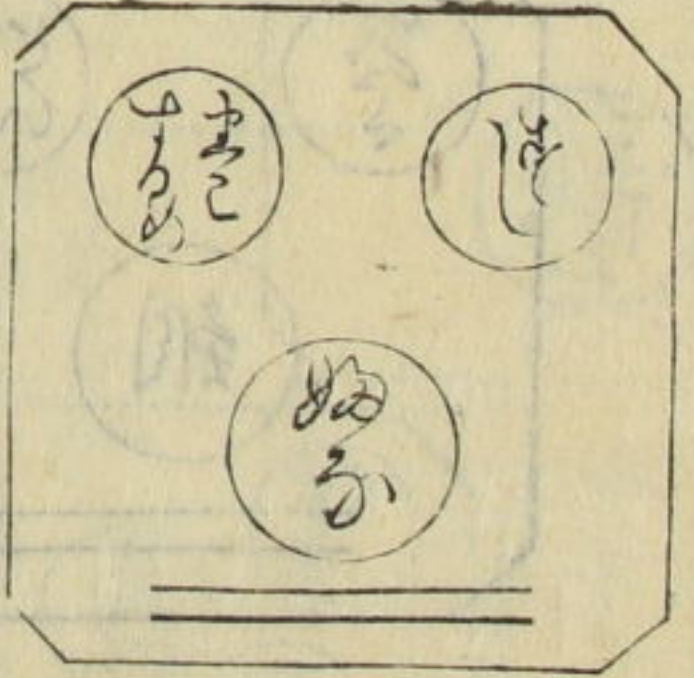
中角のよとてゆふ
盛れはけり
湯漬のよとてゆふ
とてゆふ

諸病の辨別集
卷之五

与状

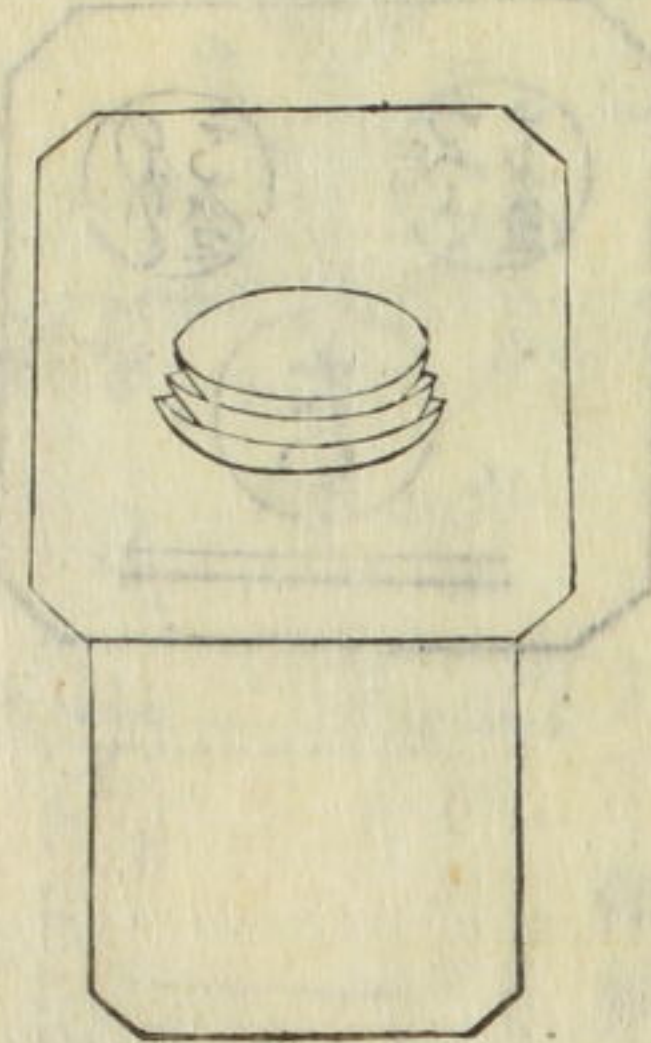


此の如き事は
 かんがへておのり
 振舞はれたいは

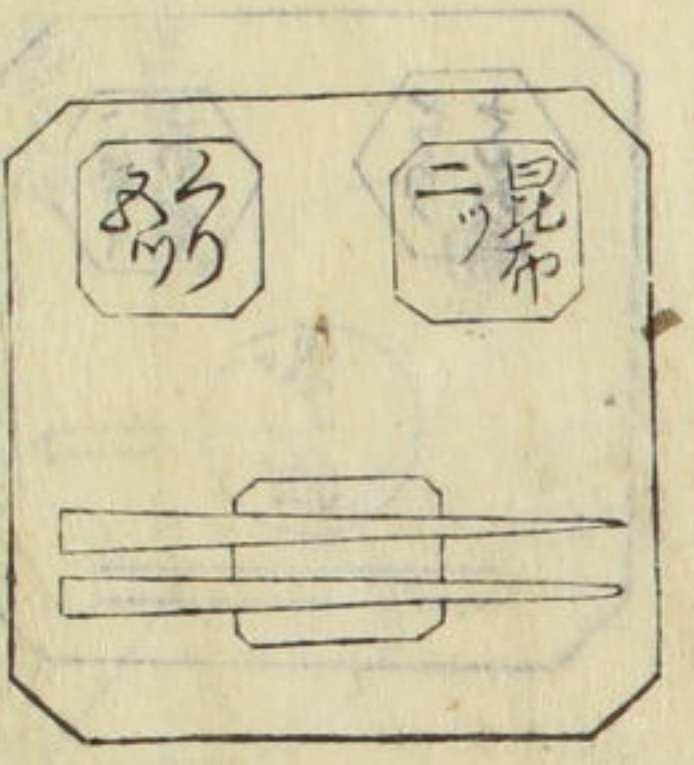


又状

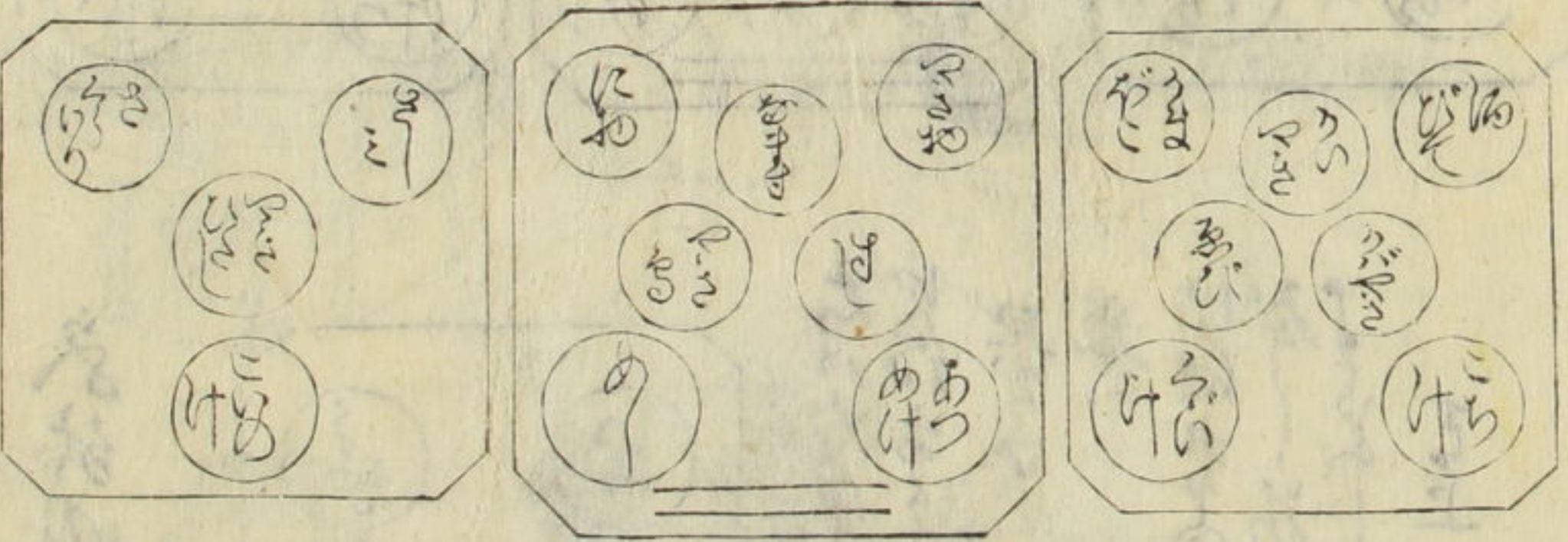
三日



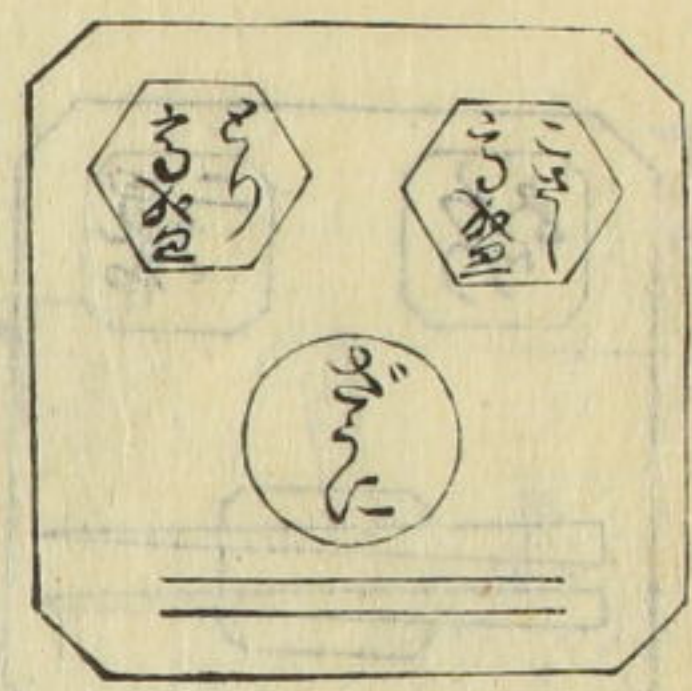
初状



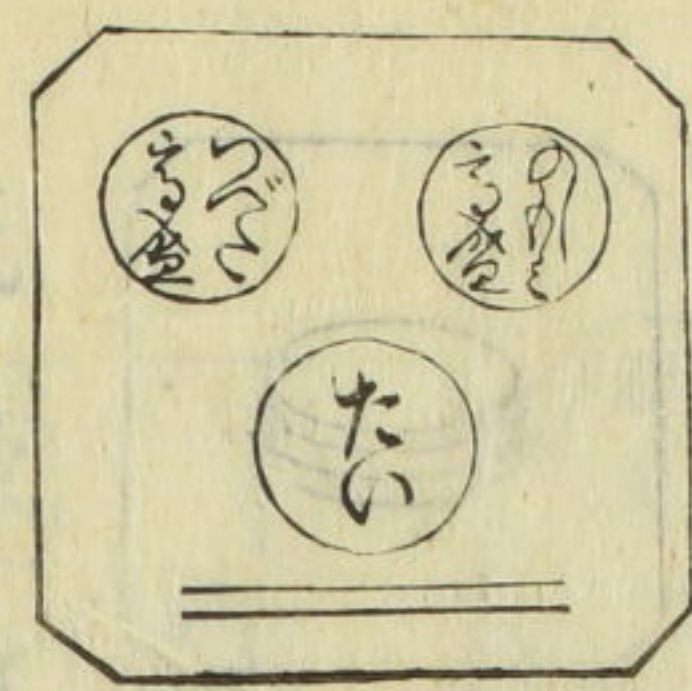
居る食



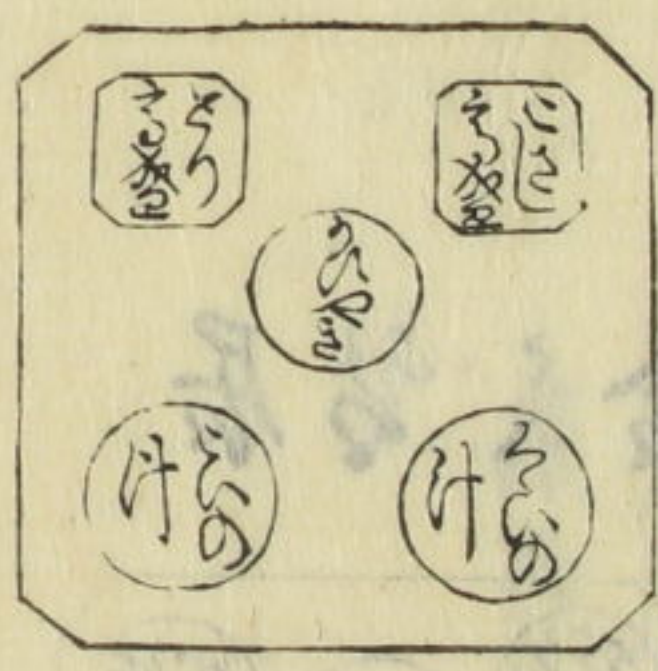
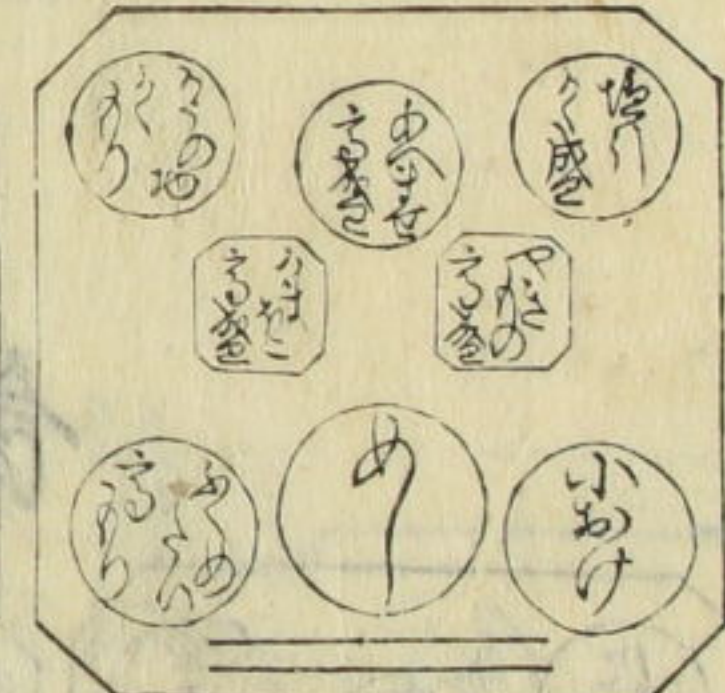
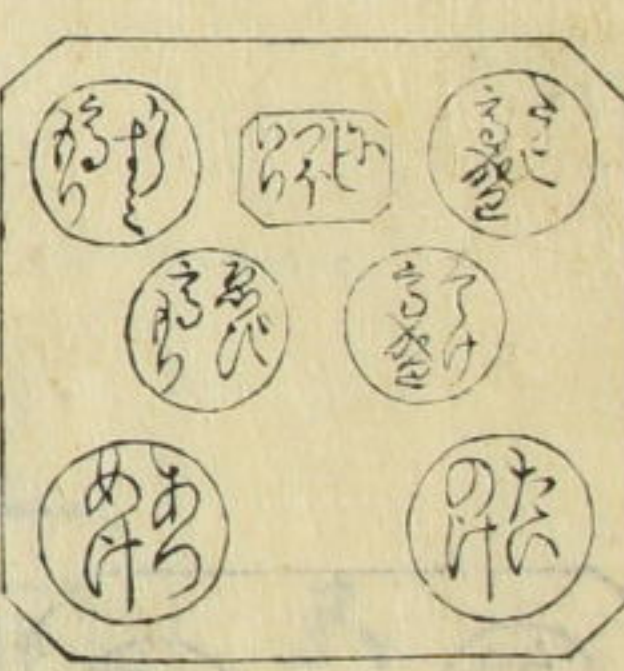
二節雜費



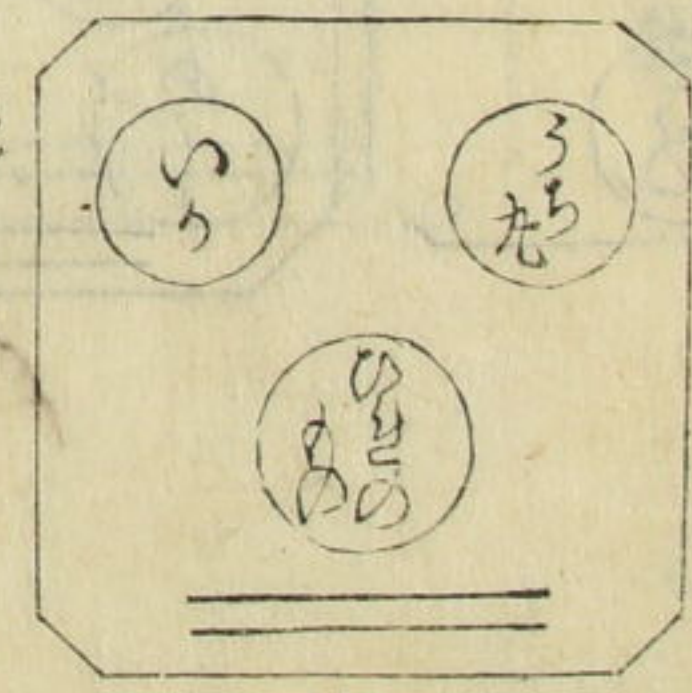
三節吸切



与献湯漬



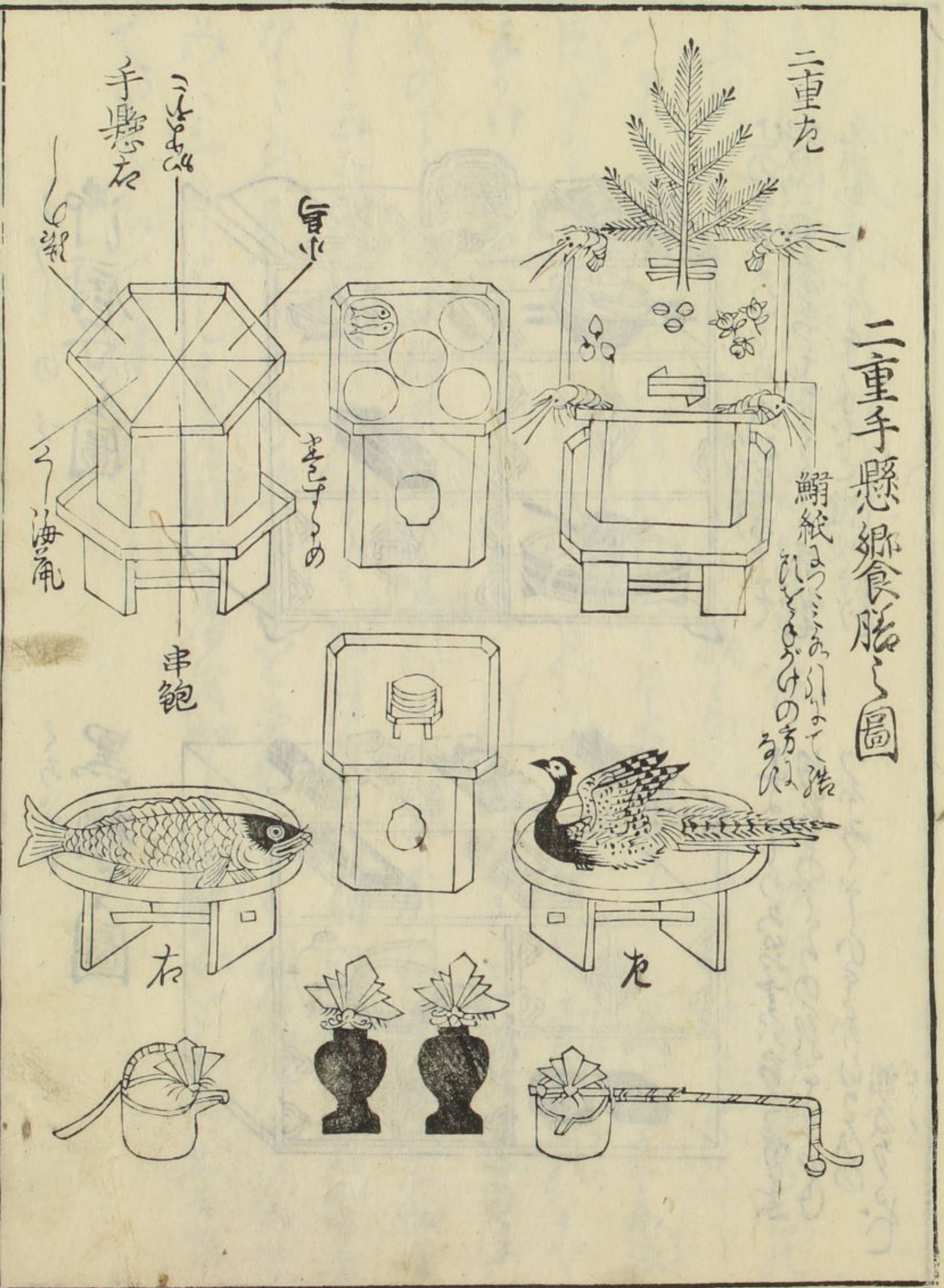
又節吸切



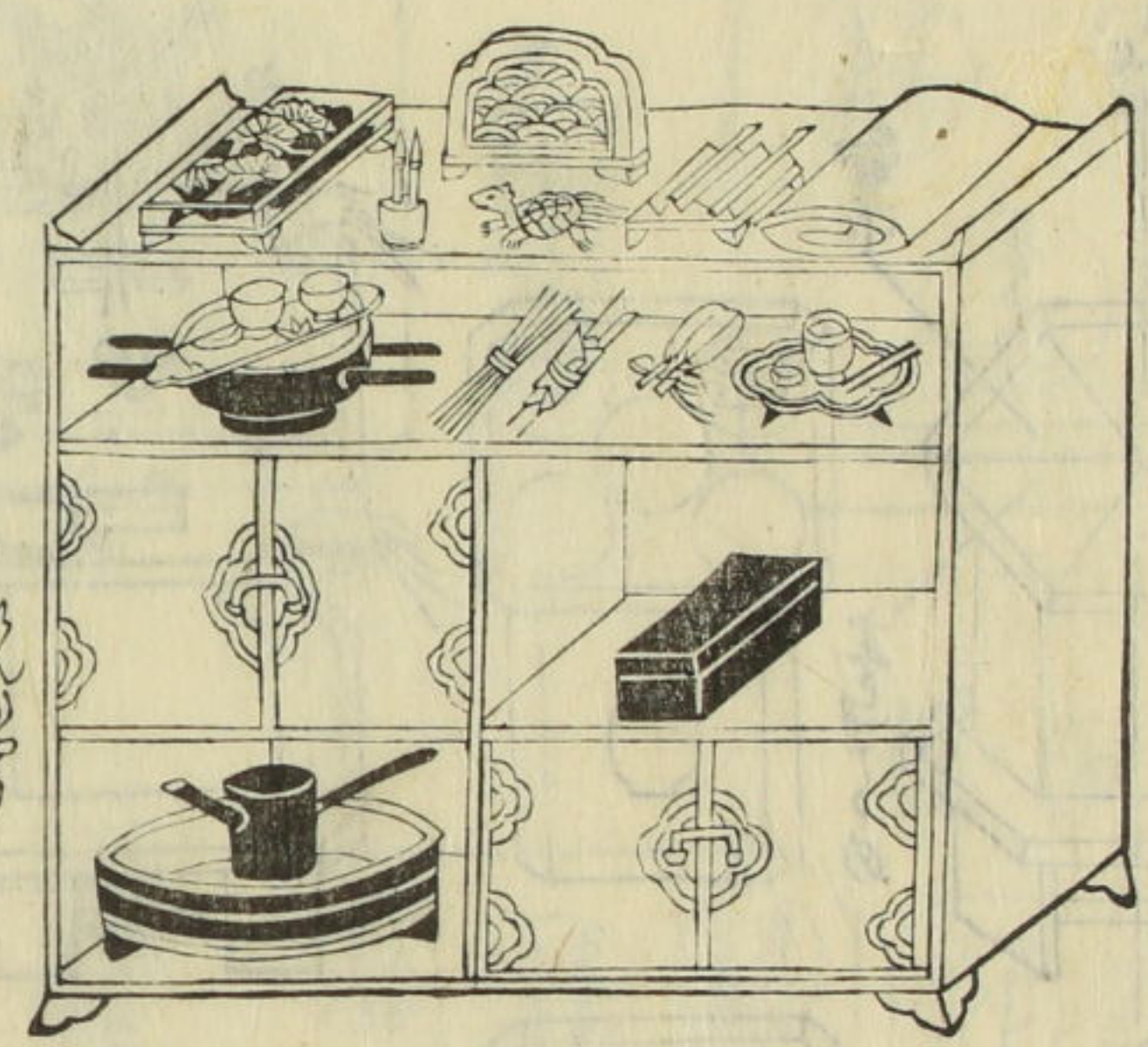
右の冷湯のり極片
は湯のり極片
菓子 拾三粒
茶 一盞
け付帯の合の儀出
今 極片八時
正上

二重手懸郷食膳之圖

鯛紋
はつとひの
方

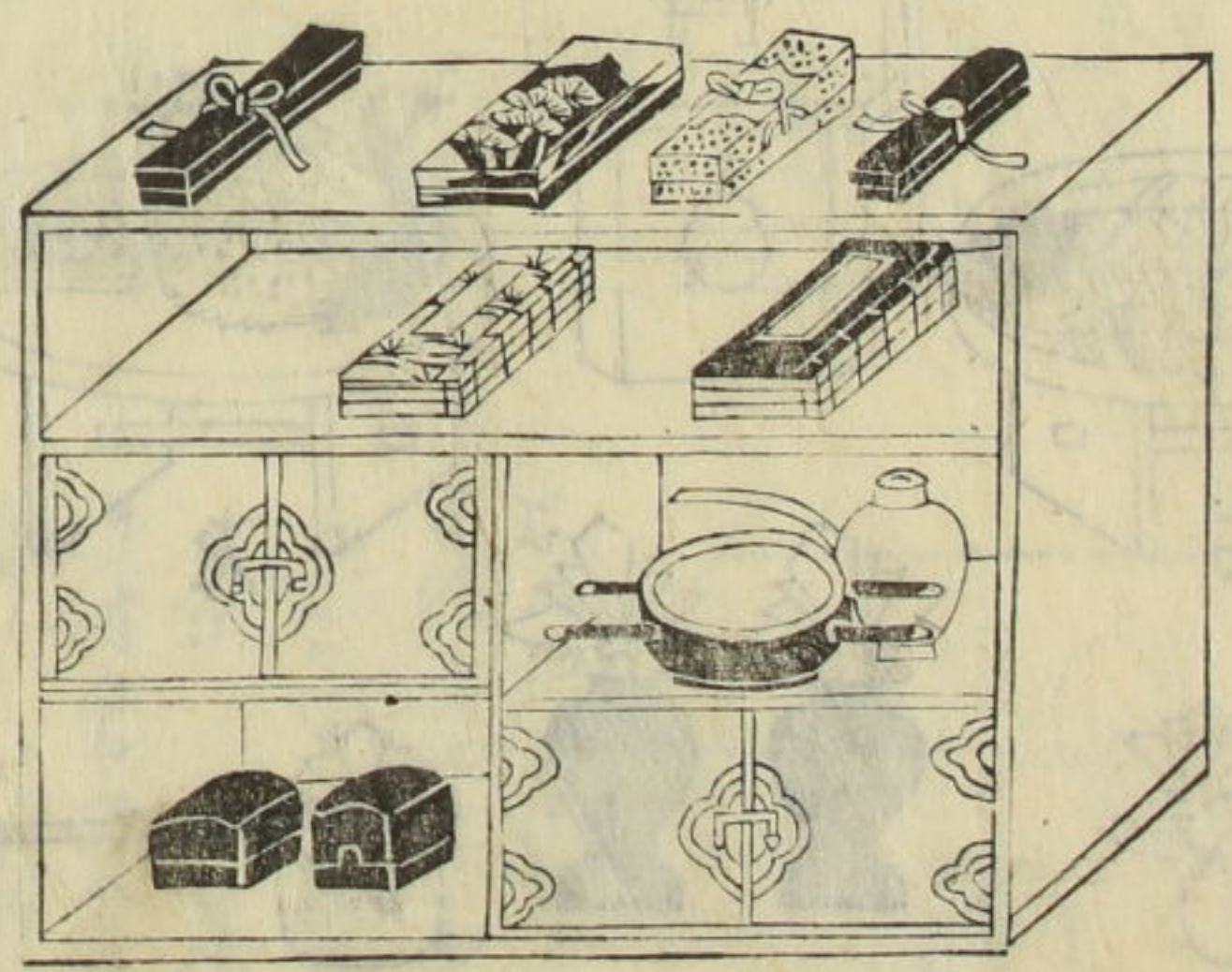


清厨子の圖



上の三層はハナハナりぬ破屋敷の
文法に御座りあまのりなごう厨櫃
三層はがんて下はごう厨櫃

黒棚の圖



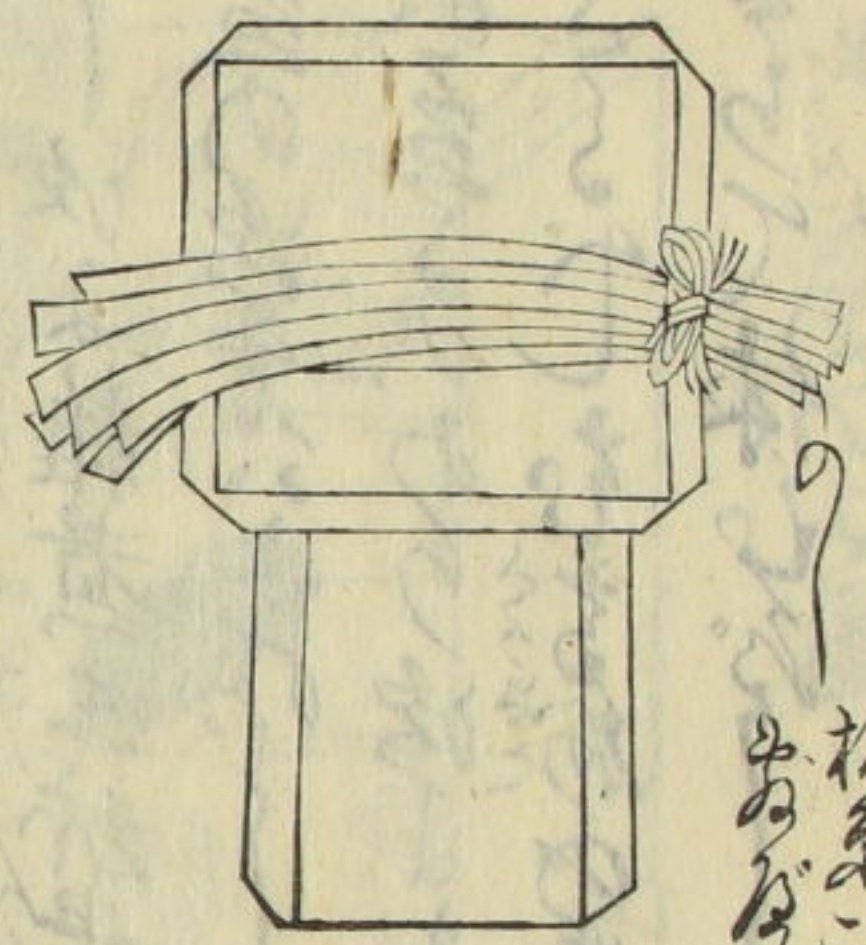
上は三層のぬおきあはごう厨櫃
御座りあまのりの厨櫃を御座り
つがみごうの厨櫃を御座り
御座りあまのりの厨櫃

同民簡く作法

民間より士農工商のりる友も位もこわがごうけきるまは
上はのりる代唯中よりけんあごあめはけり中
みどりも借して礼法にねいあまよりれ武士の連系
臣よりともかろ取おきなごうや農工商のりる
よけ三層のりるごう厨櫃
式のどくは雑者三教常はごう厨櫃
一三層のりる上はごう厨櫃はごう厨櫃
がごう厨櫃のりる代唯中よりけんあごあめはけり中
あごあめはけり中
て男ごう厨櫃

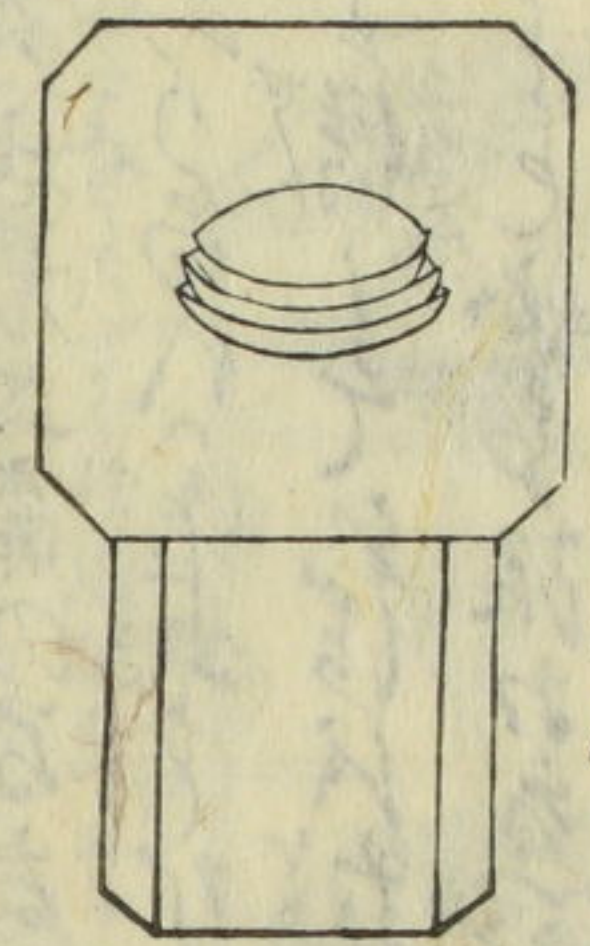
子懸

初詣二重の
お祈り

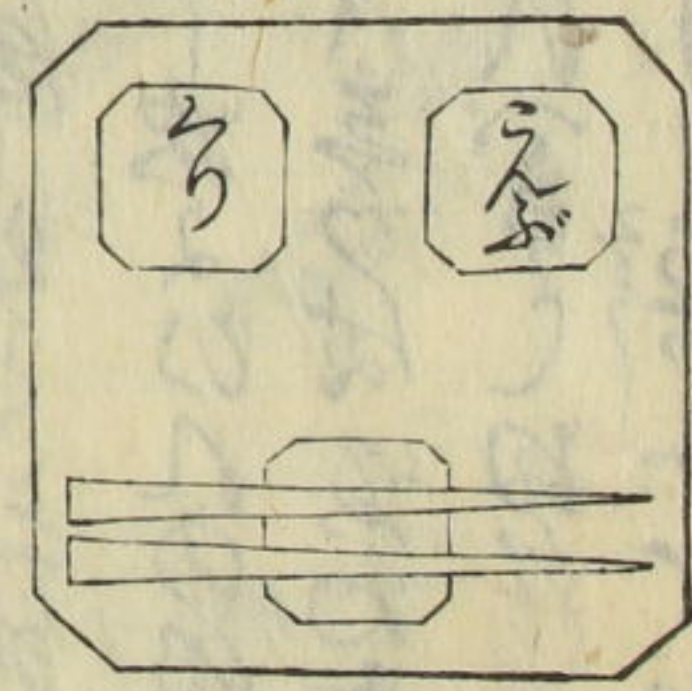


川

お祈り
お祈り



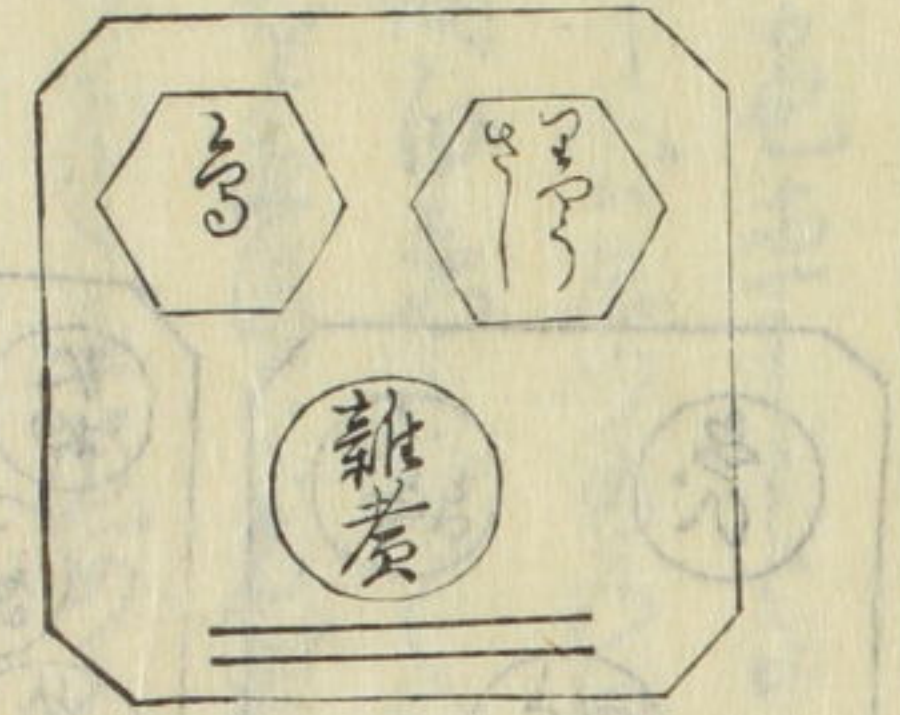
初詣の儀



あつめりて
すめりて
三神の
お祈り
お祈り

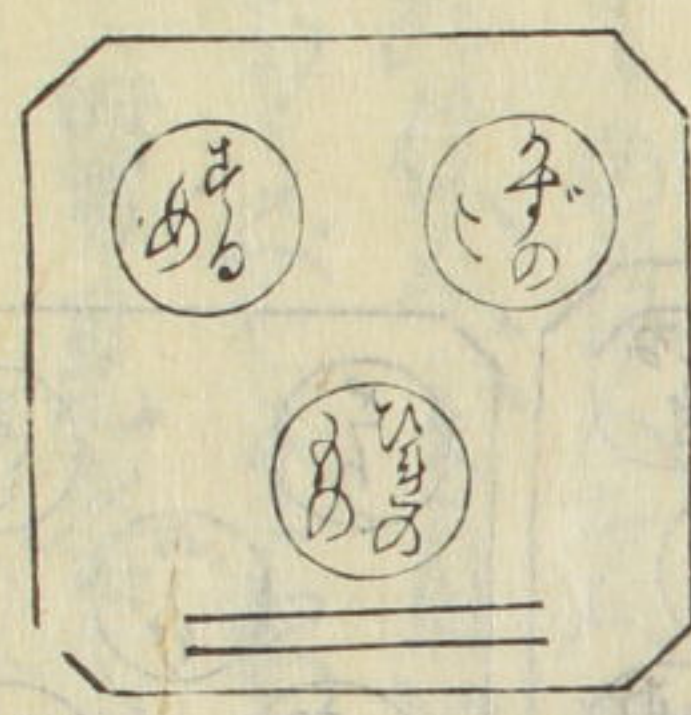
二神雑煮

二重の
お祈り
お祈り



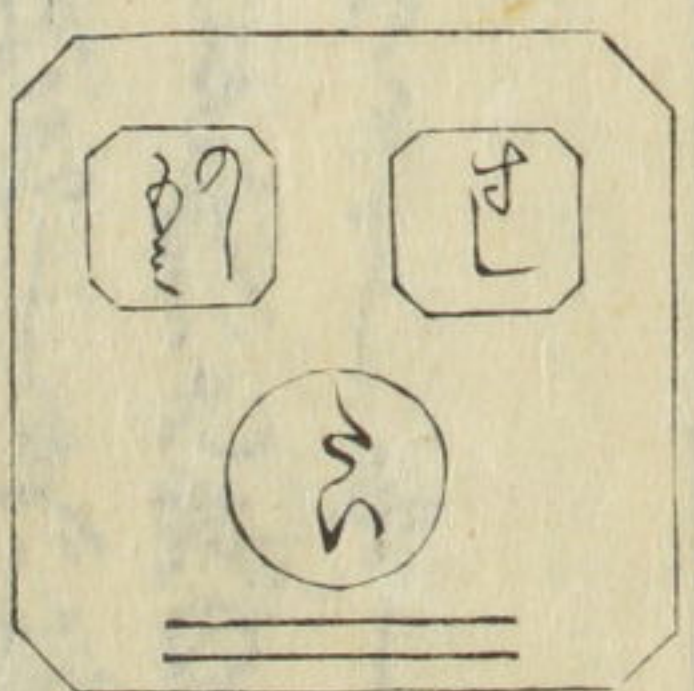
三神吸物

三重の
お祈り
お祈り
お祈り
お祈り
お祈り



与儀吸物

お祈り
お祈り
お祈り
お祈り



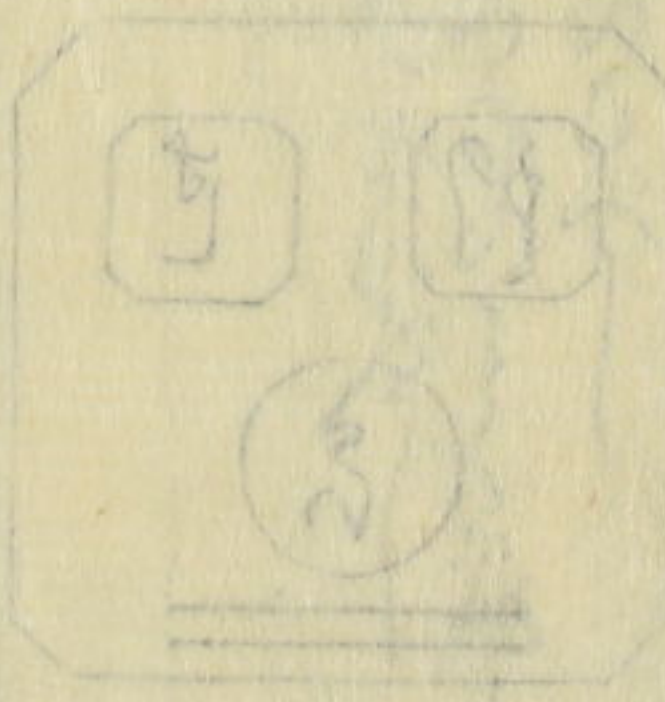
又神様

諸の...
その...
引...
係...
物...

菓子

茶

豆



色

色...
色...
色...
色...

引

引...
引...
引...
引...

男

男...
男...
男...

へり(男姑)より小神持者持来あはせりあ少(あん)限了
 真(ま)なる(一)根(ね)掛(か)と(一)三(さん)豆(まめ)と(一)引(ひ)返(かへ)し(男姑)の
 三人(さんにん)ま(一)根(ね)掛(か)の(一)三(さん)豆(まめ)の(一)根(ね)掛(か)又(また)二(に)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)
 物(もの)出(で)る(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)
 家(いえ)ま(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)
 て(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)
 は(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)
 ね(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)
 の(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)
 二(に)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)
 夜(よ)お(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)
 へ(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)

皆入

ひり(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)
 近(ちか)よ(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)
 かり(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)
 根(ね)長(なが)持(もち)よ(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)
 と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)
 ち(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)
 へ(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)
 て(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)
 物(もの)出(で)る(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)
 と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)
 子(こ)男(おとこ)を(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)豆(まめ)の(一)引(ひ)返(か)と(一)三(さん)部(ぶ)の(一)引(ひ)返(か)

心法身中く又礼法の外に

懐妊(まご)の事(こと)

月のありお月めよまのばあび草(くさ)はすなり一(いち)たじの(ま)は
 と長(なが)井(い)八(やち)人(にん)お切(き)りつまたみそを男(おとこ)め房(むら)の志(こころ)に袖(そで)よりほ
 べ一(いち)め房(むら)清(きよ)れじまごてお外(そと)より一(いち)め(ま)こころを
 じまごに袖(そで)に寄(よ)せたるに娘(むすめ)おんねのまをて兒(こ)をねるに時(とき)を
 とわり肩(かた)よ解(と)くよりお夜(よ)をせりくまのひべ一(いち)色(いろ)をすす(ま)は
 かなも裏(うら)をとりゆくは縮(ちぢ)みはせし毛(け)は産(う)まるとりり
 解(と)くよりお神(かみ)より毛(け)をかり毛(け)と染(ぞ)るに併(とも)にへを指(さ)す
 ひべ

産(う)まるとりり

一(いち)胎(た)衣(い)箱(はこ)一(いち)對(たい) 房(むら)を包(か)むと

一(いち)と一(いち)桶(か)一(いち)對(たい)女(に)中(ちゆう)のちりりまははのちりり

一(いち)下(した)りかりりり後(ご)よえ産(う)まるとりり

一(いち)肩(かた)より一(いち)脚(あし) 托(たく)の方(かた)より下(した)より架(か)とわい(わ)ぬく托(たく)の方(か)

一(いち)とらるる後(ご)よ托(たく)をむわけまげ自(ま)らじ七(なな)のちりり毛(け)を産(う)まるとりり

一(いち)と外(そと)にひかり

一(いち)舞(ま)いけ舞(ま)いけいづ若(わか)のこ一(いち)ひけし又(また)あどどくお兒(こ)よ湯(ゆ)

一(いち)と浴(ゆ)をすす時(とき)に舞(ま)いけひべ

一(いち)湯(ゆ)桶(か)盥(う)ひまごちおまつとあどど

一(いち)襦(じゆ)袢(たん)半(はん)式(しき)に二十四(にじゅうよ)四(し)條(じょう)十二(じふに)條(じょう)布(ふ)たるべ一(いち)おつと

一(いち)とひかりにほるこ

一(いち)帯(おび)掛(か)け上(うへ)のまじ布(ふ)を可(た)る二(ふた)幅(あし)より長(なが)サを人(ひと)みけけ

一(いち)まつとあどど一(いち)毛(け)を産(う)まるとりり湯(ゆ)はひるせり時(とき)をわけたり

是のふくろくろぬしき食の兒とん下の是れ上よきよれ
セド申は神のねんこ

一陽わが是し布の巨愛と男べーむまつとまじ
別は風をぬし中兒の成はぬぞよべー

色直し

色直し一入兒とぬく七十のあはるるもどめく色
わらも神はまきく程あわだし是れをたなふり
アともは上のもじし布一うすうは入く白をまひ
一かかりし海とまきべうび高はしるすや
りけとるあへぬおあへく世と答をぬし一石ぬし

食物

男とともよむく一白女日めよかすく食物の程は

食物の親は定め男子とけ男や一の女子とけ女や一がふ
しとけ神乳母乳母のさきわは食神の親うけれたれ
孫のあは神はまきや一がふ飯の祭飯ぬりて後
の向は神のまき後三すうめけはらじり神のれし
おかんまき神候わら本具よす人結はたよまのへ一と
まき三すうしるしていあはは候はたおさ下まきわら
べ一ぬらめ仕候刀振とささす神ゆて後ん
人よ海はが一ぬ三魚わいし一ゆる食物の親を親
三神のこ小兒よまは兒二神のこは父より引わわあし
又兒一神のこちゆゆる年人かき神者し又兒二神
て後まは親三神のこは腹を低ゆる年人かき神者し又親
のこはまは兒三神のこは親を低ゆる年人かき神者し又親

しる作法し程をた儀式同前出たおゑがし

禮忌ノ事

禮忌の報成にあつては報り上下麻搦持とありあつて
 此のし上下は麻マやかりんあつてマ禊祓マ松竹マ等マなり
 中兒マ上下は中種マはまきまきと申ひ先マはしりマと申ひ
 浴桶マ一鉢マ有マ相マ奏盤マの切マ月マとを方マよひけ共マと申ひ中兒
 と申ひマ禮忌マの報マと後マの人のたマちマより上下マをぬて換マひ
 するマ人マ着マ衣マのたマの方マよりあマけマ禊マとたマのマとマよりマ入マ
 するマ中マはわマくマ換マはわマくマ換マはマひマと申ひ禊祓マは報マ成マ後マに
 とマをマ後マのマひマらマあマつマよマわマるマ報マ成マとマ判マだマ一マ禊祓マのマ後マに
 申マひマ申マひマ

礼忌ノ事 禊祓五ノ事

